

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192902096		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	グループホーム まごころの贈り物 2階		
所在地	旭川市末広東1条3丁目1-4 ケアサポート末広2階		
自己評価作成日	令和3年2月12日	評価結果市町村受理日	令和3年4月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0192902096-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・笑顔で皆さんが生活出来る環境の構築に力を入れています、毎日楽しく健康にを目標に日々生活を支えています。 ・個人の意見を尊重し、眠さんが色々な場所で、お話をしたり、編み物をしたりすごされています。 ・入居者様と天気の良い日には散歩や近医受診の時には、車椅子などで季節を感じながら気分転換を図っています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年3月3日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

旭川市郊外の幹線道路近くの住宅地に位置する2ユニットのグループホームである。建物は3階建てで、2～3階がグループホームとなっている。バス停が近く、商店や医療機関も複数あり、利便性が高い。共用空間は広く、居間と食堂が別にあり、窓が多く明るい。エレベーター、床暖房などの設備が充実し、感染症対策や衛生管理面の意識も高い。法人が道内で多数のグループホームを運営し、書式や研修、食事の提供、運営管理等のノウハウが蓄積され、当事業所の運営にも活かされている。家族に対しては、感染症流行下でも衛生管理に留意し、玄関先で利用者と家族が面会できるよう工夫している。また、年4回の「まごころ便り」と毎月の「利用者のご様子」を作成し送付している。ケアマネジメントの面では、センター方式のアセスメントシートを定期的に更新し、趣味や嗜好、生活歴の情報も把握、共有している。医療支援の面では、協力医による往診の他に、利用者がそれぞれのかかりつけ医を継続的に受診できるよう、事業所で通院を支援している。排泄支援は、利用者ができる限り自力で排泄できるよう、状態に応じて、見守りやトイレ、ポータブルトイレでの介助を行っている。地域交流や外出については、感染症終息後には以前のような交流、外出が楽しめるように取り組む方針としている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1階エレベーターホールと各階事務所に理念を提示しています。また各階フロアーにてフロアー理念を提示し各フロアーの特色が出る様にしています。	職員が作った事業所独自の理念は「入居者様が地域の中でその人らしい生活ができる」という文言であり、地域密着型サービスの意義を踏まえたものである。理念を玄関や事務所、共用部分に掲げ、時折、理念の文言を確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年では、町内会行事など参加させて頂いてますがコロナウィルスの蔓延により町内活動の中止などが相次いでいます。今年は町内会行事は廃品回収のみ参加となっています。	感染症の流行により、町内会行事はあまり参加できなくなっている。以前は敬老会やお祭りの参加、近くの小学校との交流があったため、交流の復活を考えている。	感染症終息後は、以前のように町内会行事の参加や子供たちとの交流が行えるよう、つながりの維持と感染症終息後の積極的な取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年であれば運営推進会議をとうして認知症に関しての説明や、啓発などを行ってきましたが運営推進会議が今年度では文章にて開催の為思うように行う事が出来ていません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議行えないため電話や文章にてホームの現状をお伝えし問題点に関してアドバイスや意見をもらっています。また管理者が末広地区の他の会議に出席し関係性を高める努力をしています。	現在は文書開催にて2か月ごとに会議を開催している。感染症流行前の開催は家族の参加は少なく、運営報告が中心で、会議テーマの設定が十分といえない部分もあった。会議議事録を家族に送付している。	感染症終息後の開催に向け、家族の参加の呼びかけと、計画的なテーマの設定の準備を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	保護課の職員来訪や、「申請手続き」やホーム内外の「事故報告」や介護保険に関する相談や意見を、その都度または監査課の職員の方に相談させてもらっています。他GHの運営推進会議にも文章にて参加させて頂いています。	手続き等で不明な点を管理者が電話で市役所に相談している。運営推進会議の議事録を直接市役所に持参し、その際に情報交換を行っている。感染症終息後は、地域包括支援センターも含む地域のグループホームの会議に参加する予定である。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、どんなときにも行わないケアを目指しています。研修会を行い、各個人のケアの質の向上を目指しています。	身体拘束を行っておらず、年4回、不適切ケア防止委員会を開催し、年2回、マニュアルを参考に勉強会を行っている。1階の玄関は日中施錠せず、各フロアからエレベーターホールへの出入りも自由である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回行われるケースカンファレンスを通じて、虐待にならないように話し合っています。また、入浴時や就寝介助時に皮膚の観察を行い不適切なケアがないか観察を行っています。		

ふれあいの里グループホームまごころの贈り物

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	例年であれば職員が交代で、研修参加出来るように調整していますが今年はコロナウイルスの蔓延により参加できる研修が少なく、資料配布を行い施設内にて勉強会をを行えるように努力しました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に関しては、入居時に全文を読ませて頂き、不明点や疑問点をその場で解消できるように努めています。理解していただいた上で契約を行えるようにしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議「議事録」を開催後に各ホール入り口へ回覧出来るようにファイル掲示しています。一階玄関に、「意見箱」設置していますが、コロナにより面会制限が今年ありましたので去年よりはご家族よりの意見が聞きづらい状況です。	家族からの意見や要望を「申し送りノート」や「支援経過記録」に記し、職員間で共有している。感染症流行下でも、玄関先で利用者と家族が面会できるよう工夫している。年4回の「まごころ便り」と毎月の「利用者のご様子」を作成し、家族に送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各階のミーティングを通じて職員と意見交換し各フロアリーダーと連絡を密にし運営推進会議での内容を伝えています。	月1回、ユニットごとにミーティングを行い、活発に意見交換している。管理者は必要に応じて個別に職員の話を聞いている。また、職員は行事やお便り作成、防災、備品管理、食材管理などの業務を交替で担当し、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	H25年9月より、「正社員制度」を導入し、条件や責務内容または実績に応じ対象職員への向上に向けた体制作りや、事前に希望休み・夜勤回数希望を聞き入れ、勤務表の作成をしています。休憩時間の確保や事業所内の整理整頓を行い、環境整備作りを心掛けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人がチェックリストを確認し、法人全体で制作されたコンテンツを勉強することによって各職員の技術の向上を目指しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度に関しては、コロナウイルスの影響により他職種との交流会などがことごとく中止となっています。例年であれば勉強会や意見交換会など交代で参加できるようにしています。		

ふれあいの里グループホームまごころの贈り物

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	例年に比べ入居前の面談の回数や時間が制限されることが多く入居時に問題点などを把握することが難しくなっています。入居後はご本人に寄り添って問題点などを明確にしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前のホーム見学を実施していましたが今年においては、パンフレットや写真などを多用してなるべくご家族に施設をイメージしていただく様に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	できる限り主治医に関しては変更を行わず、これまでの病歴が解るようにしています。ご本人に通院歴がない場合に関しては協力医療機関にて対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のできることを確認させていただき、できることを尊重し、職員間で情報を共有しご本人らしく生活できるように支援させていただきます。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年度に関しては何回か面会制限を解除させて頂き出来る限りご家族の面会ができるように努力しました、Zoomを使用し顔がお互いに見えるように努力させて頂いています。また毎月ご様子と、まごころ便りを年4階発行させていただいています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで外出、外泊に関しては制限を設けてははみせんでしたが、コロナウイルスの影響により今年に関してはある程度制限を行わせていただいています。	感染症流行前は数名の利用者に友人の来訪があった。知人から手紙が届く利用者には、返事の手伝いをしている。現在は馴染みの美容室やお店への外出ができていないが、通院帰りに懐かしい風景を見たり、自宅付近を見に行くこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者さま同士が各居室に行かれるように、ケアを行っています。入居者様同士が交流を行えるように支援させていただいています。		

ふれあいの里グループホームまごころの贈り物

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年も退去されたご家族がスイカをもってきてくれた利しましたが例年のような皆さんとお話していただけず少し寂しい気がしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用し、入居者様の日々の言動について観察し、ご本人様の思いをくみ取り各職員が統一した対応と介護を提供できるようにしています。	3割ほどの利用者は思いを言葉で表現でき、難しい場合も過去の経験から把握している。センター方式のアセスメントシートを定期的に更新し、趣味や生活歴の情報も把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族にいろいろと確認して進めてまいりましたが現在は、紙に記入してもらい、電話などでいろいろな情報を提供していただいています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランに沿ってケアを提供し、職員間で気付きを共有できるようにしています。またカンファレンスなどにて話し合っています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一度のミーティング・カンファレンス時に職員からの情報や計画評価を行い、御本人や御家族の希望、要望を取り入れながら、ケアマネージャーが介護計画を作成しています。	介護計画を3～6か月で見直ししており、モニタリングシートやカンファレンス記録も整備されている。日々の記録を介護目標の番号を記載しながら目標に沿って記入しているが、より個人ごとの差が生じないよう取り組む方針としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	現在、介護記録ソフトを導入し随時紙の媒体から電子媒体に移行しています。情報に関しては2.3階職員が分け隔てなく入居者様の情報にアクセスすることができます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今年に関しては、職員、入居者様がコロナに感染しないことを重点項目で生活してきました。今後落ち着いた時に今までのつながりを復活させていきたいと思っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ過での町内活動の中止や他活動がいろいろところで全面的に中止となり今後、活動が再開されたときに活動を再開したいと思っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の長年の主治医を継続して受診しています。かかりつけ医とは情報提供を行い、良好な関係を気づいています。	協力医による往診の他に、利用者がそれぞれのかかりつけ医を継続的に受診できるよう、事業所で通院を支援している。受診内容を個人ごとの「受診記録」に記載し、必要に応じて家族に報告している。	

ふれあいの里グループホームまごころの贈り物

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の利用者の状況報告や相談は系列施設看護師へ系列看護師対応困難な場合は管理者が看護師の為24時間での相談、緊急対応を実施しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	普段の情報提供については各階のケアマネが情報交換を行っています。入退院のムンテラに関しては、管理者が参加し医療的な部分に関しての調整を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約書と共に、「重度化に伴い方針」に基づき説明させて頂いています。 御本人や御家族の希望を確認し、医師・看護師・職員と十分に話し合い「看取り」についての話し合いを進めて対応が出来る体制を整えています。	利用開始時に「利用者様が重度化した場合の対応に係る指針」を説明し、同意を得ている。ここ数年は看取りの事例がないが、今後も希望があれば事業所で対応可能な範囲の看取り支援を行う方針としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成していますので、急変時にはマニュアルを参照し初期対応ができるようにしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	備蓄用品が今年期限が切れたため全部の備蓄品を入れ替えています。石油ストーブの灯油に関しては現在関係各所に連絡の上備蓄に向けて働きかけています。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を防災設備会社や住民の立ち合いのもと実施しており、災害時の備蓄品も用意している。救急救命訓練は資格を持つ管理者が職員を定期的に指導する計画としている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報に関しては各階鍵のかかるところに保管していますが、記録などは随時電子媒体に移行しており各個人はIDとパスワード管理しています。	虐待防止委員会で適切な声かけについて研修を行い、不適切な対応があれば個別に指導している。利用者への呼びかけは「さん」づけにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の意向をくみ取れるように、ケア実施時に職員間で気付きを共有できるようにしています。なるべく入居者様自身の意向が聞けるように寄り添う時間を多くしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりが尊厳を持って生活できるようにその日の気分体調に合わせたケアをおこなえるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容に関しては、制限が解除されたときに来ていただいています。なかなか理美容に関しては難しい部分が出てきています。		

ふれあいの里グループホームまごころの贈り物

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関しては各個人距離をある程度取り感染対策をしています、皆さん食事中にお話をしたり楽しそうにいられます。	法人作成の献立で、祝日に炊き込みご飯や赤飯、ひな祭りにはちらし寿司などを提供している。誕生日は職員の手作りケーキでお祝いしている。利用者と一緒にたこ焼きやお好み焼き、じゃがバターを作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量に関しては個別に記録を付けていますので、把握することができるようになっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨き、義歯の洗浄を行っています。自力にて行えない方に関しては、介護員のほうで援助を行い口腔内のせいけつを保持できるようにケアしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、便意や尿意のある方には声がけなどで促しを行い習慣を維持しています。	排泄・水分チェック表に全員の排泄を記録し、トイレでの排泄を支援している。自立している利用者も見守りなどで安全面に配慮している。2人介助が必要な場合は夜間のみポータブルトイレを使用することもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄コントロールを行えるように主治医と連携し下剤や水分などでコントロールしております。体操時には下腹部のマッサージを行い刺激刺激を行えるようにしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は決まっていますが、個人の入浴を尊重し解除できるように努めています。	毎日、午後の時間帯で一人週2回の入浴を支援している。好みの湯加減にし、入浴剤などを使用して楽しめるように工夫している。入浴を拒む時は職員を代えたり、直接的な声かけをしないでスムーズに入浴できるように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できるように、部屋の温度を適温にできるよう見回り時に調整をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人ファイルに現在の服用薬の薬一覧を収納してありすぐ確認できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者様の趣味や特技を職員間で情報共有し、「裁縫」や「編み物」が趣味の方には、「お手玉・座布団カバー」を縫って頂いたりしてもらっています。		

ふれあいの里グループホームまごころの贈り物

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの蔓延により外出活動は控えています。例年であれば近所を散歩したり、町内会の活動などに参加させていただきます。	感染症の流行により外出は難しかったが、受診時に外気に触れたり、利用者の精神状況に応じて玄関先で気分転換することもある。感染症終息後は、近隣の散歩や季節に応じた外出行事も再開したいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族とお話し合いお金を持っている入居者様もいらっしゃいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関しては各居室にはありませんので、事務所の電話を使用してもらっています。ほかお手紙が着たりする方にはご本人とお話しし代筆しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられ様に、季節の花や植木鉢にお花を飾り、また季節行事を行う事によって季節感を感じていただけるようにしています。今年はベランダで、枝豆や紫蘇などを栽培しました。	明るく開放感のある室内で、廊下を中心に居間と食堂が分かれた造りになっている。カレンダーや行事の写真、利用者と一緒に制作したちぎり絵などが飾られている。ユニット玄関や居間には観葉植物も置かれている。感染症対策として、次亜塩素酸水加湿器を使用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	消防法に違反しないように、廊下に椅子や机を置き各入居者様がケガをしないように配慮しながら各個人が生活できるように援助しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が生活していた時と同じ環境を作れるように、自宅で生活に使用していたものを持ってきてもらっています。	居室にはクローゼットが備え付けられている。ベッドやタンス、仏壇などを持ち込んだり、家族写真や自分の作品を飾り落ち着いて過ごせるように工夫している。以前からの生活習慣で布団で寝ている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	御本人と御家族の了承を得て、居室前に表札や御本人の好まれる絵や写真を飾ったり、トイレの場所が分かるよう「プレート」で示しています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192902096		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	グループホーム まごころの贈り物 3階		
所在地	旭川市末広東1条3丁目1-4 ケアサポート末広3階		
自己評価作成日	令和3年2月12日	評価結果市町村受理日	令和3年4月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0192902096-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・笑顔で皆さんが生活出来る環境の構築に力を入れています、毎日楽しく健康にを目標に日々生活を支えています。 ・個人の意見を尊重し、眠さんが色々な場所で、お話をしたり、編み物をしたりすごされています。 ・入居者様と天気の良い日には散歩や近医受診の時には、車椅子などで季節を感じながら気分転換を図っています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年3月3日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1階エレベーターホールと各階事務所に理念を提示しています。また各階フロアーにてフロアー理念を提示し各フロアーの特色が出る様にしています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年では、町内会行事など参加させて頂いてますがコロナウィルスの蔓延により町内活動の中止などが相次いでいます。今年は町内会行事は廃品回収のみ参加となっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年であれば運営推進会議をとうして認知症に関しての説明や、啓発などを行ってきましたが運営推進会議が今年度では文章にて開催の為思うように行う事が出来ていません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議行えないため電話や文章にてホームの現状をお伝えし問題点に関してアドバイスや意見をもらっています。また管理者が末広地区の他の会議に出席し関係性を高める努力をしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	保護課の職員来訪や、「申請手続き」やホーム内外の「事故報告」や介護保険に関する相談や意見を、その都度または監査課の職員の方に相談させてもらっています。他GHの運営推進会議にも文章にて参加させて頂いています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、どんなときにも行わないケアを目指しています。研修会を行い、各個人のケアの質の向上を目指しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回行われるケースカンファレンスを通じて、虐待にならないように話し合っています。また、入浴時や就寝介助時に皮膚の観察を行い不適切なケアがないか観察を行っています。		

ふれあいの里グループホームまごころの贈り物

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	例年であれば職員が交代で、研修参加出来るように調整していますが今年はコロナウイルスの蔓延により参加できる研修が少なく、資料配布を行い施設内にて勉強会をを行えるように努力しました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に関しては、入居時に全文を読ませて頂き、不明点や疑問点をその場で解消できるように努めています。理解していただいた上で契約を行えるようにしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議「議事録」を開催後に各ホール入り口へ回覧出来るようにファイル掲示しています。一階玄関に、「意見箱」設置していますが、コロナにより面会制限が今年ありましたので去年よりはご家族よりの意見が聞きづらい状況です。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各階のミーティングを通じて職員と意見交換し各フロアリーダーと連絡を密にし運営推進会議での内容を伝えています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	H25年9月より、「正社員制度」を導入し、条件や責務内容または実績に応じ対象職員への向上に向けた体制作りや、事前に希望休み・夜勤回数希望を聞き入れ、勤務表の作成をしています。休憩時間の確保や事業所内の整理整頓を行い、環境整備作りを心掛けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人がチェックリストを確認し、法人全体で制作されたコンテンツを勉強することによって各職員の技術の向上を目指しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度に関しては、コロナウイルスの影響により他職種との交流会などがことごとく中止となっています。例年であれば勉強会や意見交換会など交代で参加できるようにしています。		

ふれあいの里グループホームまごころの贈り物

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時などに、言動や表情観察を行いながら、御本人が「今まで生活してきた」ペースを崩さず、不安や要望を話しやすい環境の中で、傍に寄り添うなど安心感や信頼関係が持てるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前にご家族にパンフレットを用いて説明していますが今年においては新規の入居者様がいませんので、コロナ対応に対しては特に行っていません。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族に問題としているところを聞き取りました、こちらからも提案させていただいています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のできることを確認させていただき、できることを尊重し、職員間で情報を共有しご本人らしく生活できるように支援させていただきます。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会制限がなかなか解除されずご家族と入居者さまにご迷惑かけていましたがZoomを使用しオンラインで面会を行っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで外出、外泊に関しては制限を設けてはいませんでしたが、コロナウイルスの影響により今年に関してはある程度制限を行わせていただいています。今後落ち着いた時に再開させて頂きたいと思っています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者さま同士が各居室に行かれるように、ケアを行っています。入居者様同士が交流を行えるように支援させていただいています。		

ふれあいの里グループホームまごころの贈り物

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後入院先の医療相談員などと連絡を取ったりさせて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用し、入居者様の日々の言動について観察し、ご本人様の思いをくみ取り各職員が統一した対応と介護を提供できるようにしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今年は新規入居者様がいなかったため、普段としてはご家族とご本人様にお話し情報を提供してもらっています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランに沿ってケアを提供し、職員間で気付きを共有できるようにしています。共有ノートなどを使用し個別対応できるようにしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一度のミーティング・カンファレンス時に職員からの情報や計画評価を行い、御本人や御家族の希望、要望を取り入れながら、ケアマネージャーが介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	現在、介護記録ソフトを導入し随時紙の媒体から電子媒体に移行しています。情報に関しては2.3階職員が分け隔てなく入居者様の情報にアクセスすることができます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生ま			

ふれあいの里グループホームまごころの贈り物

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の利用者の状況報告や相談は系列施設看護師へ系列看護師対応困難な場合は管理者が看護師の為24時間での相談、緊急対応を実施しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	普段の情報提供については各階のケアマネが情報交換を行っています。入退院のムンテラに関しては、管理者が参加し医療的な部分についての調整を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約書と共に、「重度化に伴い方針」に基づき説明させて頂		

ふれあいの里グループホームまごころの贈り物

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	感染症対策を行いながら各利用者様が退屈しないように努めています。あまり大きな声でお話をするとう感染する危険がある為ある程度節度を持って介助を行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量に関しては個別に記録を付けていますので、把握することができるようになっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨き、義歯の洗浄を行っています。自力にて行えない方に関しては、介護員のほうで援助を行い口腔内のせいけつを保持できるようにケアしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	大体の方が排泄に関して		

ふれあいの里グループホームまごころの贈り物

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	他の方に合わないよう近所を散歩しています。今までは近所の方とお話をしたりいろいろな季節の移り変わりを観察することができましたが今年はあまり外出できていません。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族とお話合いお金を持っている入居者様もいらっしゃいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関しては各居室にはありませんので、事務所の電話を使用してもらっています。Zoomなど使用しご家族と顔を見ながらお話できるような態勢を整えています／		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって			

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里グループホームまごころの贈り物

作成日：令和 3年 3月 31日

市町村受理日：令和 3年 4月 7日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	2	コロナ感染症により、町内活動が減少しており、入居者が町内活動に参加できない現実があります。また近隣の小学生との交流もコロナ感染症の為同じく滞っています。	コロナ感染症が落ち着いたら、以前のように町内のお祭りなど町内活動に入居者様が参加できるようにしたい。また、近隣の小学生の方とも交流を再開したい。	・町内会長さんと連携を行い、町内活動が再開されたら参加させていただく。 ・今後落ち着いたら、交流のあった先生方に連絡を行い再開できる時期を探っていく。	1年以内
2	4	運営推進会議に、ご家族の参加が少なく今年に関しては書面にて運営推進会議を何回か行っていたのでコロナ感染症が落ち着いたらご家族の参加を促したい。	コロナ感染症が落ち着いたら、運営推進会議のご家族の参加を増やしていきたい。	・コロナ感染症が落ち着いてきたら、毎月発行している入居者様のご様子の中や面会のなかでご家族の参加をお願いしていく。	1年以内
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。